

ハイブリッド医療人養成コースシンポジウム  
ファン・デン・ブルックとモーニッケ生誕 200 年を記念して

■日時：平成 26 年 6 月 28 日（土） 8：50～12：50

■場所：長崎大学 医学部 良順会館ボードインホール

■演題／演者：

1. 「杉田玄白と蘭医学の主張：『狂医之言』を読む」 /W. J. ボート先生
2. 「江戸・明治初期の医療器具について」 /W. ミヒェル先生
3. 「日本近代医学の魁 オットー・G. J. モーニッケ」 /相川 忠臣先生
4. 「日本近代科学技術の先駆者 J. K. ファン・デン・ブルック」 /H. ボイケルス先生
5. 「視学機器発展とボードインの臓器別医学講義」 /相川 忠臣先生

■参加者：77 名（学外 14 名、学内 63 名）



■内容：

オランダのライデン大学よりハルメン・ボイケルス先生、ボート・ウィレム・ヤン先生、九州大学よりヴォルフガング・ミヒェル先生、長崎原爆病院より相川忠臣先生をお招きし、ハイブリッド医療人養成コースシンポジウムを開催いたしました。これは、ハイブリッド医療人養成コースのコース科目の一つ、「学外連携セミナー」の一貫として行われたものです。医工連携が大きなテーマとなっている本プログラムにおいて、江戸・明治の頃の医療や科学技術、医療器具などについての先駆者である杉田玄白やファン・デン・ブルック、モーニッケなどについて幅広い視点でお話していただきました。

江戸時代唯一開国していた長崎という場所に、オランダとの貿易により入ってきた医療技術や知識があり、それを島で開花させたという歴史がありました。あらゆることで外国からのモノや文化があふれ、最先端であった長崎であるからこそ、その当時の人々の意思を受け継ぎ、またここから最先端の医療機器を開発することに意味があるのだと感じたシンポジウムとなりました。